

トビウオ通信 (R8 第4号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和8年トビウオ類の漁獲動向と今後の見通し》

トビウオは、島根県の県魚にして食文化を支える重要な魚であり、「あご（飛魚）野焼き」「あご（飛魚）だし」などの特産品の原材料として使われています。

そこで、令和8年5月までの島根県及び他府県のトビウオ類の漁獲動向と当県における今後の見通しについて紹介します。

島根県におけるトビウオ類の漁況(～5月)と今後の見通し

これまでの漁獲動向(～5月) : 前年を上回る

今後の見通し(令和8年年間漁獲量) : 前年を上回る

※漁獲量の評価基準:「上回る」は前年・平年比が120%より大きい、「下回る」は80%より小さい、「並み」は80%～120%としています。

トビウオ類の漁獲動向について

(1) 島根県での漁獲動向

島根県で漁獲されるトビウオ類は、ホソトビウオとツクシトビウオの2種類です。令和7年のトビウオ類の漁獲量は76トンであり、平年(令和2年～令和6年)の2割、前年の6割でした。漁獲盛期は5月～7月であり、ピークは6月でした(図1)。今期(令和8年1月～5月)のトビウオ類の漁獲量は54トン^{※1}で推移しており、平年同期(令和3年～令和7年平均)の1.0倍、前年同期の3.8倍でした。

※1 令和8年5月の漁獲量は速報値

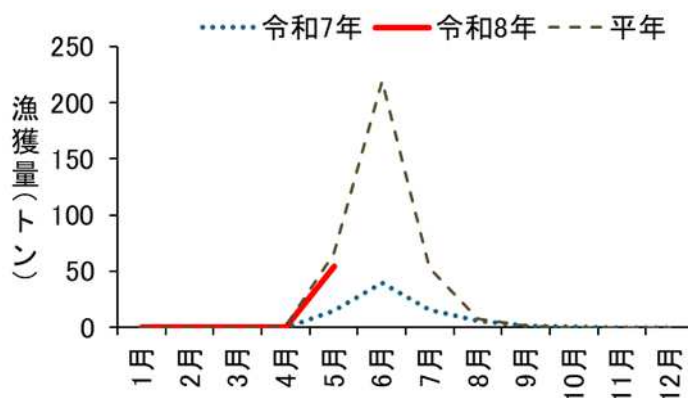


図1. 島根県におけるトビウオ類の月別漁獲量(全漁法)
なお、令和8年5月の漁獲量は速報値

(2) 他府県の漁獲動向

令和3年～令和8年の1月～5月における日本海西部各府県^{※2}(山口県、島根県、兵庫県、京都府、福井県及び石川県)のトビウオ類の漁獲動向を図2に示します。

令和8年は島根県、京都府、福井県、石川県が前年を上回り、山口県が前年を下回り、兵庫県が前年並みとなっています。

なお、直近6年（令和3年～令和8年）の漁獲動向は、島根県、兵庫県、京都府、福井県及び石川県が減少傾向、山口県が増加傾向となっています。

※2「中西部日本海漁海況速報」（一般社団法人漁業情報サービスセンター発行）をもとに、トビウオ類漁獲量を集計。ただし、当県以外の各データは標本（一部の港又は定置網の漁獲量のみを集計したもの）であり、各府県全体の漁獲動向を表したものではありません。

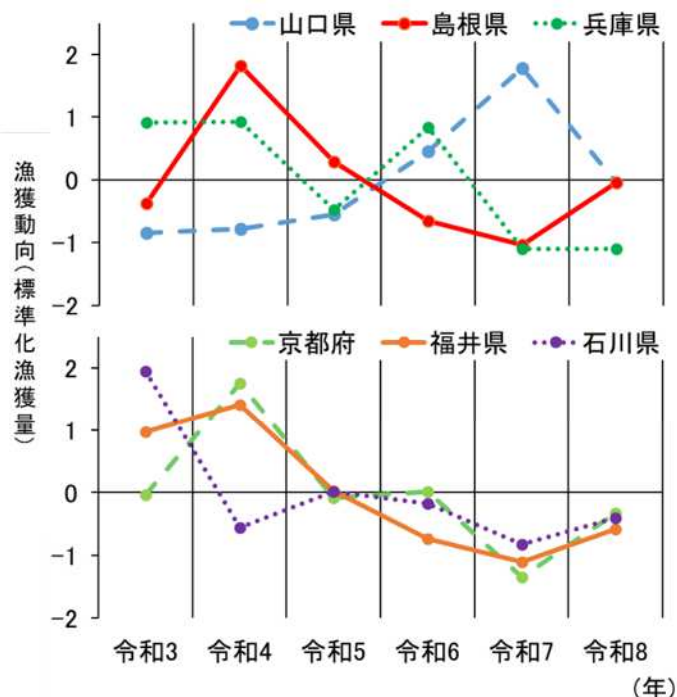


図2. 日本海西部各府県のトビウオ類の漁獲動向（標準化漁獲量）
標準化漁獲量：同じ条件で比較するために漁獲量データに統計処理を施したもの

島根県におけるトビウオ類漁況の今後の見通し

島根県では、5月からトビウオ類がまとまって漁獲され始めます。そこで、5月の漁獲量とその年の年間漁獲量の関係性について、過去10年間（平成28年～令和7年）のデータを使って検討しました（図3）。その結果、5月の漁獲量が多ければ、年間漁獲量が多くなるという強い関係性が見られました。このことから、5月の漁獲量によって、その年のトビウオ類の漁況が予測できる可能性が示されました。

なお、当県における令和8年5月の漁獲量（速報値）は、前年を上回っています。以上のことから、今後の漁況は、前年を上回って推移する可能性が高く、平年どおり6月頃にピークを迎え、その後は徐々に減少していくと考えられます。

トビウオ類の漁獲動向は、漁業者をはじめ、加工業者にも大きく影響します。引き続き、漁獲動向や海況等に関する情報収集とともに、関係機関と連携しながら、トビウオ類の生物情報（サイズ、成熟状況等）や来遊状況に関する知見の蓄積に努め、関係者へ情報提供していきます。

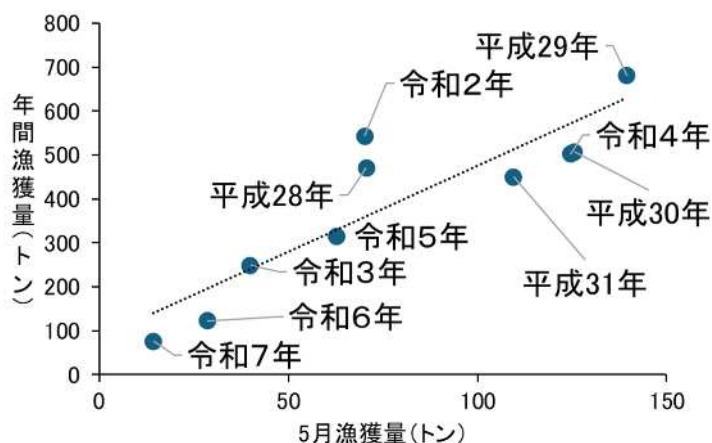


図3. 島根県におけるトビウオ類の5月の漁獲量と年間漁獲量の関係（全漁法）